



横須賀子ども学力向上 プロジェクトについて

(1) 学校体制の確立に関する事業

(2) 学習状況、体力状況の把握と指導改善に関する事業

(3) 学習環境の整備に関する事業

(4) 教員の指導力向上に関する事業

(5) 学習機会の拡大に関する事業

(6) 家庭学習の確立に関する事業

※上記事業を総括して、「横須賀子ども学力向上プロジェクト」と示しています。

学校体制の確立に関する事業

事業① 学力向上推進モデル校の設置

予算 ￥540,000

フロンティア研究委託の一環として、学力向上に向けた取組の推進校を設置します。平成 28 年度は、岩戸小学校、北下浦中学校、横須賀総合高等学校の 3 校がモデル校となりました。

岩戸小学校は国語科の「書く」をテーマとして、学力向上につながる学習指導案の作成等、その実践について授業公開を行い、取組の発信を行いました。

北下浦小学校は、「総合的な学習の時間」を中心とし、探究をとおした学力向上を追究する研究を行いました。研究を進める中で、学級集団の重要性についても視点をおき、多角的な取組を行っています。

横須賀総合高等学校は、教科横断的な視点での授業実践を行う等、学力向上に向けた独自の取組について追究を行いました。

学力向上推進モデル校については、その実践について公開授業や研究紀要によって、市内に広く発信し、各学校の学力向上に向けた具体的な取組につなげていきます。

平成 29 年度も学力向上推進モデル校を大塚台小学校、池上中学校、横須賀総合高等学校の 3 校に委託しています。

事業② 学力向上推進委員会の設置及び提言の発信

予算 ￥101,200

学識経験者、保護者代表、学校代表で構成された学力向上を推進する委員会です。教育委員会の諮問を受け、年間 4～5 回の委員会の中で諮問に対する答申を行います。平成 27 年度については、これまでの学力向上の取組の検証を行い、学力向上に向けた学校が取り組むべき新たな 3 つの提言を示しました。平成 28 年度は、新たな提言に沿った取組を行う中で、教員が授業に向き合うための具体的な方策について、答申が行われ、授業づくりに関する資料が作成され、各学校に示されました。

平成 29 年度は、教育振興基本計画第 3 期実施計画に合わせ、新たな横須賀市学力向上推進プランについて検討し、作成が行われる予定です。

学習状況、体力状況の把握と指導改善に関する事業

事業① 横須賀市立小・中学校学習状況調査

予算 ￥31,811,100

平成 25 年度から、全国調査とは別に業者に委託を行い、学習状況調査を実施しています。これは、児童生徒が自身の学習状況を把握することによって、学習意欲を高めるとともに、横須賀市の児童生徒の詳細な学習状況について把握、分析し、調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善に役立てることを目的としています。

平成 29 年度は小学校 3 年生が国語・算数、小学校 4 年生、5 年生が国語・社会・算数・理科、小学校 6 年生が社会・理科、中学校 1 年生が国語・社会・数学・理科、中学校 2 年生が国語・社会・数学・理科・外国語、中学校 3 年生が社会・理科・外国語を実施しています。また、上述した対象学年のうち、小学校 6 年生、中学校 3 年生を除いた学年で、児童生徒質問紙を実施しています。

学習状況調査は毎年 4 月に実施し、6 月に結果が返却され、各学校では、その調査結果をもとに、児童生徒の課題に対しての取組を行うとともに、各学校で結果の分析を行い、学校としての課題を明らかにすることで、学校体制での学力向上の取組につなげています。

教育委員会においては、横須賀市の学習状況調査の結果をもとに分析を行い、横須賀市全体としての課題を明らかとし、施策・事業につなげています。また、学校担当指導主事が各学校の調査結果の分析を行い、学力向上に関わる指導・助言につなげています。

事業② 横須賀市児童生徒体力・運動能力、運動習慣等調査

予算 ￥4,978,621

小学校 3 年生から中学校 3 年生を対象とし、新体力テストの集計および、運動習慣等の質問紙調査を実施することで、児童生徒が自身の体力状況を把握することで、運動への意欲を高めるとともに、横須賀市の児童生徒の体力状況を把握、分析することで、学校の指導改善につなげていきます。

事業③ 学力・体力Wアップ事業

予算 ￥6,831,250

児童生徒の学力・体力向上の推進のため、各学校の課題・状況に応じて具体的目標を設定し、様々な取組を充実させることを目的としています。1 学級につき、6,250 円の予算計上を行い、学校の実態合わせて、教材・教具・備品の充実に活用したり、新体力テスト実施時の補助による指導の充実に活用したりしています。

3

学習環境の整備に関する事業

事業① サポートティーチャーの派遣

予算 ￥71,755,868

学習内容の定着状況に課題の見られる児童生徒を対象とした個別の学習指導や少人数での補修等も含めた学習指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることを目的として、放課後及び課業時間内・長期休業中及び土曜日を利用し、非常勤職員（以下サポートティーチャー）を派遣する事業です。

小学校では週5回程度、中学校では週2回程度の派遣をし、学校や児童の実態に応じて、様々な指導形態で学習支援が行われています。

事業② 小学校3年生35人学級

予算 ￥41,840,091

市学習状況調査の結果から、小学校3年生から学習状況に課題があるということが明らかとなりました。学習の定着については、一人一人に対してきめ細やかな学習支援が必要であり、少人数での指導により成果を上げている自治体も見られます。そこで、小学校3年生において35人学級を実現するため、市内小学校に非常勤講師を派遣しました。学級的人数が35人以下になることにより、低学力層へのよりきめ細やかな指導を充実させ、学力向上につなげていきます。

事業③ ネイティブ・スピーカー指導者配置

予算 ￥247,530,600

市立小学校、中学校、高等学校にALT（外国語指導助手）及び中学校にFLT（外国人教員）を配置し、ネイティブ・スピーカーと直接触れ合う時間を設けることで、小学校の外国語活動及び教科としての外国語学習の充実を図ることを目的としています。小学校、中学校、高等学校の12年間で、国際都市横須賀の将来を担う、子どもたちの国際コミュニケーション能力を育成していきます。

ALTは横須賀市内全小学校に配置され、中学校には、FLT配置校を除く19校に配置されています。また、高等学校にも配置が行われ、国際コミュニケーション力を育成する環境を整えています。

事業④ 学校司書の派遣

予算 ￥25,149,124

横須賀市の児童生徒の実態として、読書に課題があることが明らかとなりました。また、学力向上においては文章を読み解く力としての読解力は重要であり、その読解力は読書と大きく関わります。そこで、市内学校の学校図書館の充実のために、学校司書を配置し、各学校を訪問して、学校図書館の環境整備や学校図書館を活用した授業の補助、図書館ボランティアの活動を支援し、児童生徒が主体的・意欲的に読書活動に取り組むことを目指します。

平成 29 年度は、学校司書を 23 名任命し、小学校全校に配置しています。

4

教員の指導力向上に関する事業

事業① 学校支援員の派遣

予算 ￥8,400,000

市内小学校、中学校の状況を把握すること、また、教員の指導力向上を支援することによって、学校の円滑な運営を図ることを目的としています。平成 29 年度からは、小学校担当 3 名（1 名増員）、中学校担当 2 名の学校支援員を配置しています。

学校支援員は希望調査をもとに担当校を訪問し、授業参観及び相談業務を通して、各学校の状況把握に努めます。また、学校からの要請に基づいて、支援が必要な学級の正常化を図るための活動を行います。

学校の要請に合わせて広く支援を行い、教員の指導力向上及び学校運営の円滑化を図ります。

事業② 指導力向上のための研修（OJT）開催

教育研究所では、教員の基本研修において、校外研修とともに、「ペア研修」という校内研修を課しています。経験年数の少ない教員については、先輩教員とペアとなり、先輩教員の授業を参観し、振り返りを行ったり、作成した指導案をもとに自身の授業を参観してもらい、研究協議を行ったりするなど、先輩教員からの指導・助言によって、授業技術の伝達を受け、指導力の向上を図っています。

事業③ 研究委託事業

予算 ￥8,851,000

横須賀市の子どもたちに、より確かな学力をはぐくむことができる授業を提供するには、教育研究は必要不可欠です。学校という単位で研究に取り組むことで、今以上に各学校の特色を鮮明にし、教師一人一人の資質向上とともに、学校の活性化につながります。より質の高い学校教育を提供していくために、教育研究を充実させることを目的として、本事業が位置づけられています。

横須賀市立の学校すべてに研究委託を行っています。取組によって委託内容が変わり、平成 29 年度はチャレンジ研究委託校が 63 校、フロンティア研究委託校が 12 校です。研究委託は学校の立候補をもとに市教委の審査によって決定します。

事業④ 教科指導員の配置

予算 ￥216,000

横須賀市の小学校及び中学校における教科の指導改善と教育水準の向上を図るため、各教科の専門性の高い教員を教科指導員として委嘱しています。教科指導員は、教科研究会における助言や学校研究における助言、学校から要請があった場合には模範授業を実施する等を職務としています。

教科は国語、社会、算数／数学、理科、外国語、道徳とし、各教科小学校2名以内、中学校2名以内の計4名以内とし、任期は1年間です。

事業⑤ 小学校低学年授業アドバイザー

予算 ￥9,472,840

市学習状況調査を検証した結果、本市では、小学校低学年から学習状況に課題があることが明らかとなりました。これは、教員の年齢構成のアンバランス化により、小学校低学年（特に2年生）に経験年数の少ない教員が多く配置されていることが、一つの要因として考えられます。

そこで、小学校低学年の経験年数の少ない教員を対象とし、国語・算数・生活科を中心とし、授業づくり及び特殊性のある低学年への指導方法を支援することにより、教員の指導力向上を図ることを目的として、小学校低学年授業アドバイザーを配置しました。

小学校2年生の学級が3クラス以上の学校を対象として、2週間に1回、継続的に指導を行っていきます。平成29年度は4名のアドバイザーを配置しています。

事業① 横須賀土曜寺子屋事業

予算 ￥5,416,451

横須賀市の児童生徒の主体的な学習態度の育成を図り、学力の向上を目的として、「よこすか土曜寺子屋教室」を開設しています。地域のコミュニティセンターを開設場所とし、サポートティーチャー及び学習サポーターを配置することで、近隣の児童生徒が自主的に学ぶ機会を設定しています。市内13カ所のコミュニティセンターにおいて、毎月1回、土曜日に開設しています。寺子屋教室で育成される主体的な学習態度は、生涯にわたって学び続けることができる人づくりの基盤であると捉えています。

事業② 子どもプログラミング教室

予算 ￥2,078,309

小学生を対象にプログラミングを学ぶことを通して、将来を担う児童の情報力や論理的思考力の向上を図ることが目的です。

プログラミングの体験から、回を追うごとに内容を高め、プログラミングの実践を学んでいきます。夏季休業期間には、親子プログラミング教室の開催につなげ、プログラミングを通じて親子の交流を図ります。

事業③ 土曜科学教室

予算 ￥1,307,520

小学生を対象に実験・観察を通して科学の面白さを感じ、理科を学ぶ意欲を高めることを目的として開催しています。電力中央研究所や株式会社ナリカ等、外部に講師委託し、専門的な講師から学ぶことで、より深い学びとなっています。平成29年度は全6回の開催を予定しています。

6

家庭学習の確立に関する事業

事業① 家庭学習啓発リーフレットの配布

予算 ￥562,616

家庭学習の計画や生活を振り返るリーフレットを配布することで、家庭学習や生活習慣を確立し、学力向上につなげることを目的としています。

家庭学習啓発リーフレットは、発達段階に応じて小学校低学年版、中学年版、高学年版、中学生版が作成されています。また、保護者への啓発を目的とした、保護者向けリーフレットを作成し、学校を通して各家庭に配布しています。

事業② 保護者・市民向けフォーラムの開催

予算 ￥12,000

横須賀市の学習状況やその分析結果について、また、現在求められている学力について等、保護者・地域に向けて発信をすることで、家庭・地域の意識を高め、学力向上に向けた学校・家庭・地域の連携を図ります。

平成 28 年度は地域に向けたフォーラムを開催し、市内連合町内会を回って、横須賀市の児童生徒の学習状況を説明し、学力向上に向けた協力を依頼しました。平成 29 年度は広報という形で、「広報よこすか」に学力向上に関する記事を掲載し、市民に広く啓発を図ります。

事業③ 家庭学習応援事業

予算 ￥571,704

児童が自発的に家庭学習に取り組み、日常的に行うことにより家庭学習の習慣を身に付けることで、学力向上につなげることを目的とします。

小学生を対象とし、低学年、中学年、高学年に向けて家庭学習がんばりカードを作成し、計画的に取り組めるよう、学校の取組を支える資料とします。

横須賀子ども学力向上プロジェクト

学校体制の確立

- ☆学力向上推進モデル校の設置（教育指導課）
学力向上の取組の推進校として設置し、その実践について発信し、市内各学校の具体的な取組につなげる。
180,000×3校＝540,000円
- ☆学力向上推進委員会の設置及び提言の発信（教育指導課）
市内の学力向上の取組に関わる分析・検証から、その方向性についての提言を行う。
101,200円（内訳：委員報酬等）

学習環境の整備

- ☆サポーターティーチャアの派遣（教育指導課）
児童生徒一人一人に合わせた学習を保障し、学力向上を図る。
71,755,868円（サポーターティーチャー報酬、連絡会等）
- ☆小学校3年生35人学級（教育指導課）
低学年の学級人数を少なくすることにより、児童一人一人に対する指導・支援を充実させ、確実な学習の定着を図ることを目的とする。41,840,091円
- ☆ネイティブスピーカー指導者配置（教育指導課）
生徒の英語環境を整え、コミュニケーション力の向上を図る。247,530,600円

☆各種助員の派遣（支援教育課）

児童生徒一人一人のニーズに沿った学習支援を行い、落ちついた学習環境を提供する。（特別支援学級助員、教育支援臨時助員、日本語指導員）

☆各種相談員の派遣（支援教育課）

児童生徒一人一人のニーズに沿った相談支援体制を組むことで、児童生徒が安心した学校生活を送ることを目的とする。（ふれあい相談員、登校支援相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー）

☆学校司書の派遣（教育指導課）

学校図書館を整備し、学校図書館の活用を推進することで、学力向上につなげる。
25,149,124円

学習状況、体力状況の把握と指導改善

- ☆横須賀市学習状況調査（教育指導課）【拡充】
横須賀市の子どものたちの学習状況を把握することで、課題を明らかにし、指導改善につなげる。（小3～中3）
31,811,100円
- ☆横須賀市児童生徒体力・運動能力、運動習慣等調査（保健体育課）
横須賀市の子どものたちの体力状況を把握することで課題を明らかにし、指導改善につなげる（小3～中3）
4,978,621円
- ☆学力・体力Wアップ事業（教育指導課）
児童生徒の学力・体力向上に特化した各学校の実態に応じた取組を推進する。
6,831,250円

学力向上

学習機会の拡大

- ☆土曜科学教室（教育研究所）
実験・観察を通して科学の面白さを感じ、理科を学ぶ意欲を高める。
1,307,520円
- ☆横須賀土曜寺屋事業（教育指導課）
地域が主体となって「土曜教室」を開設することにより、地域と連携して、児童生徒の学力向上を図る。
5,416,451円
- ☆子どもプログラミング教室（教育指導課）
プログラミングを学ぶことを通して、将来を担う児童生徒の情報力や論理的思考力の向上を図る。
2,078,309円

指導力の向上

- ☆学校支援員の派遣（支援教育課）
各学校を巡回し、授業観察及び指導助言することにより、各校の学校運営の改善や授業力向上を図る。
8,400,000円
- ☆指導力向上のための研修開催（教育研究所）
経験年数の浅い教員を対象とし、先輩教員を講師とし、授業技術の伝達を行うことにより、指導力向上を図る。
- ☆研究委託事業（教育指導課）
各学校の学校研究を充実させ、教員一人一人の授業改善につなげ、授業力向上を図る。8,851,000円
- ☆教科指導員の配置（教育指導課）
各教科の専門性の高い教員を教科指導員として委嘱し、校内研究等の指導助言を行い、授業力向上を図る。
216,000円
- ☆小学校低学年授業アドバイザー（教育指導課）【新規】
小学校低学年の経験年数の浅い教員を対象とし、国語・算数・生活科を中心とし、授業づくり及び特殊性のある低学年への指導方法を支援することにより、指導力向上を図る。
9,472,840円

家庭学習の確立

- ☆家庭学習啓発リーフレットの配布（教育指導課）
家庭学習の計画や生活を振り返るリーフレットを配布することで、家庭学習や生活習慣を確立する。
562,616円（内訳：印刷費）
- ☆保護者・市民向けフォーラムの開催（教育指導課）
横須賀市の学習状況やその分析結果について、保護者・地域に向けて発信することで、家庭・地域の意識を高め、学力向上に向けた学校・家庭・地域の連携を図る。
12,000円
- ☆家庭学習応援事業（教育指導課）
家庭学習で活用できる学習環境を整備することにより、家庭学習の取組の習慣化及び充実を図る。
571,704円

(事務局)

横須賀市教育委員会事務局 学校教育部 教育指導課

住所 〒238-8550 横須賀市小川町 11

TEL 046-822-8479 (教育指導課)

FAX 046-822-6849 (教育委員会事務局 共通)

